

労働問題に關係して來た。

今後に於ても時代の推移と要求とに應じ海員の幸福を増進し其の利權を擁護し以て海運界に平和と協調とを齎らし海事の發達に資すべき事項には大小と無く労働問題でも何でも關係するであらう。蓋し之れ本會の目的達成に最も必要なこと、信するからである。

右は本會創立の趣旨であり、現在の定款の規定に照して論を俟たないことであるが近來動もすれば本會の趣旨を誤解し、單に之を目して學藝の研究所、若は社交俱樂部とし、從て海員問題の如きは其の取扱ふべき事業の範圍に在らずと考ふる向がある様だから念の爲め此點を明かならしめむとする次第である。

## 社団法人海員協會一覽

### 第一 沿革

海員團體の必要は夙に海員の先覺者に依り唱導せられ各種會合の席上に於て問題となりたるも幾多の事情に阻碍せられ容易に其實現を見る能はざりしが、明治二十九年一月に至り漸く其の機熟し、十數名の發起人相謀り會合數次にして愈々具體的に一の團體を組織し海上學藝の攻究、海員相互の親睦と其地位の向上を計り以て帝國海事の發達を期するの目的を以て同年一月二十五日初めて神戸市西出町二百六十三番地に事務所を開設し海員俱樂部と稱し其の條款及び規約を設け申込書式を定め廣く天下の高級船員に徴して其の賛同入會を求めたり。之れ本會の濫觴なりとす。

當初の同意者は六十八名にして互選に依り大川大藏、加藤勝豊、春日融、勝沼五郎、横田末次郎、横山愛吉、高井吉右衛門、古川與市、堀内五作、菅沼實の十氏を舉げて幹事と爲し専ら創立の事務に當らしめたり。